



# 給食会だより

第108号

〔公財〕川崎市学校給食会



〒210-0004 川崎区宮本町6番地（明治安田生命ビル4F）

TEL 200-3298,3300 FAX 222-1442

## 中学校給食始まる！！

公益財団法人川崎市学校給食会理事長 山田雅太



皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も、給食に関わる皆さんと共に力を合わせて「安全・安心な給食」をめざして、努力していききたいと思います。どうぞ、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

さて、今年は申年です。「申」は、果実が成熟して固まっていく状態を表しているそうです。ものごとの形が明らかになってくる年、実が固まってくる（完熟までには達しない）年と考えると、学校給食会にとりましても「中学校給食」の姿が明らかになってくる年と考えることができます。

新年早々の1月7日に「東橘中学校給食試行実施」が始まりました。当日は、市長、教育長、教育委員会委員、教育委員会事務局の皆さん等、報道関係者を含めると40人ほどが東橘中学校にお邪魔しました。東橘中学校は、お正月から大賑わいです。川崎市での初めての「**中学校給食の歴史**」の始まりです。

子母口小学校との合築方式校舎なので、給食室から各階の配膳室までは、民間委託の給食調理員さんが行います。配膳室から教室までは生徒の仕事です。【写真①】

小学校の教員だった私から見ると、中学生が配膳をきちんとできるのは当たり前のことです。小学校1年生でも、1ヶ月もすればできるようになりますので……。でも、中学生が手洗い場で、きちんと手を洗う姿を見て、ちょっと感動しました。

そうそう、「給食をみんなで食べる」ということは、こういう指導が大切なんだと改めて思い起こします。【写真②】 小学生の皆さん、きちんと食事前に手洗い、うがいをしていますか？

さて、「配膳」に戻しましょう。福田市長と一緒に給食を食べる3年生の教室を覗いてみました。小学校と同じようにトレーをもって、給食当番にごはん、おかず、牛乳などを順番によそってもらいます。【写真③】

ちなみに、給食調理員さんの心づかいでしょうか。ご飯の食缶を開けると、ゆかりでごはん「start」と書かれていました。【写真④】

目の前にいた中3の男子生徒に、「どう？給食の配膳の仕方覚えていましたか？」と聞くと「やー、忘れちゃったな。」と答えました。1年生の教室では「大丈夫です。去年の今頃は、私たち、給食を食べていましたから。」と自信たっぷりに明るい返事をしてくれました。それでも、給食を食べ始めたのは3年生の方が早かったです。やはり、亀の甲より年の劫か。

【当日のメニュー】



【写真①】



【写真②】



【写真③】



【写真④】



それでは、給食を食べるマナーはどうでしょう。給食を片付けるルールはどうでしょう。忘れていないでしょうか？何よりも、子どもたちは給食を楽しんでいるのでしょうか？せっかくの「中学校完全給食の実施」が子どもたちの喜びや楽しみになっていなければ意味がありません。私の興味は尽きません。あちらの教室、こちらの教室と駆け回りました。

市長や教育長のいる教室も、いない教室も、きちんと全員の配膳を待つ姿【写真⑤】、全員で「いただきます」をする姿、小学校となんら変わるところはありません。**小学校で長年培ってきた給食指導は、生徒の心に生きていたのです。**

楽しそうに食べていた生徒にインタビューしてみました。「初めての中学校給食はいかがですか？」こんな答えが返ってきました。

**「川崎市内の中学校3年生の中で、私たちだけが、こんなに美味しい、温かい給食を食べて卒業できる。校舎もきれいだし、本当に幸せです。」**



【写真⑤】



【楽しそうな食事風景】

片付けも、注目してみました。此处でも、当たり前のように給食台を拭く姿、協力して食器を片付ける姿、当番で配膳室まで運び、「ごちそうさまでした」と調理員さんに挨拶する姿がありました。



【友達と協力して、片付けをする生徒】

いかがでしたでしょうか？初めての中学校給食実況中継。まだ、「中学校給食が完熟」しているわけではありません。自校調理校、給食センター調理校等を含めた、中学校給食の全容はまだ見えません。しかしながら、その姿が次第に明らかになってきましたので、今回は、その様子を是非皆様にお届けしたいと思います。

中学校の給食事業は総額450億円に上る川崎市の大事業となっています。これは、新国立競技場の建設の東京都が支出する額に相当します。大きな予算が子どものために生かされるように、新年度は、皆さんで力を合わせていかなければなりません。どうぞ、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「申年」は、ものごとが明らかになってくる年とご紹介申し上げましたが、一方で申年は、病去る年などという意味にも使われます。また、「申（猿）」は、「去る」にも通じるということで「さる」という言葉を忌み嫌い「得て公」という言葉を生み出したそうです。給食に関わる多くの皆さんが何か「得る」ものが多い年になるように願っています。みんなでいいもの「得ていこう」！！